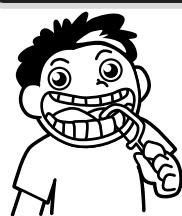


●● 齢研究会



エビデンスに基づく 低う蝕時代の口腔保健の ありかた



飯島 洋一 先生



6月6日(木)佐賀市アバンセにて、歯科研究会「エビデンスに基づく低う蝕時代の口腔保健のありかた」を開催いたしました。講師に飯島洋一先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科准教授)をお招きし、30医療機関より52名の参加がありました。以下、参加者からの報告です。

今回は、「エビデンスに基づく低う蝕時代の口腔保健のありかた」という題目で長崎大学大学院医歯薬学総合研究科准教授飯島洋一先生にご講演いただきました。

講演では、学校検診でのう蝕としてカウントされないCoについてと、Coの再石炭化とフッ素の関係についてお話ししていただきました。

さらにCoについて詳しく述べてあります。

説明があり、脱灰されても表面は欠けることなく連続しており細菌は歯質へ侵入していない。そのため表層を通過した酸

で脱灰された下層のエナメル質も、感染歯質ではなく再石炭化することがで

きさらに再石炭化時に

メタル質も、感染歯質ではなく再石炭化することがで

ます。また、Coが増えていること。そしてこのCoは、再石炭化することがで

きさらにガラス状になつて光

性が増すこと。Coが白濁

して見えるのは、表面が

すりガラス状になつて光

の乱反射を起こしている

からであり、ミネラルの

取り込みで表面が再び滑らかになると白濁が消え

る事。Coの発見には歯の表面の水分を飛ばす必要がある事などをお話しになりました。先生はCoへの対処として、①フッ化物を併用した定期的なPMTC、②再石炭化促進作用のある製品、特保食品の活用、③十分な再石炭化期間(再石炭化には脱灰にかかる3倍の時間が必要)を挙げられました。矯正治療で白濁した歯が、元に戻つてく様子は圧巻でした。

知っているようでおんなかったCoについてとその対処法を勉強でき、とても有意義な時間となりました。ご講演いただきた飯島先生、開催のため御尽力いたいたい関係者の皆さまに心より感謝申上げます。

佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
(三井生命ビル4F)
電話 0952(29)1933
FAX 0952(23)5218
HP http://saga-doc.jp
✉ hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料 1部 200円
送料込 年間2,400円
(会員の購読料は会員料に含まれています)

協会会員数
医科 633人
歯科 324人
合計 957人
(5月31日現在)

主な記事

- わたしの主張「少食多嗜」
- 個別指導の改善等で九州厚生局と懇談
- ドクターズ・デモンストレーション2013
- 経営税務「株・投資の税制上の注意点と投資優遇税制」
- 労務管理「健診を受けたパート職員に時間給を支払う?」
- 勤務時間「健診を受けたパート職員に時間給を支払う?」
- 6面
- 3面
- 2面
- 3面
- 6面

第32回 定期総会

市民公開講演会 入場無料

演題／

「消費税のカラクリ」 ～間違いだらけの消費増税～

講師／

斎藤 貴男 氏

[ジャーナリスト]



* どなたでもご参加いただけます。
お誘い合わせの上、ご来場ください。
* 定員になり次第締め切ります。

7月27日(土)
ホテルマリターレ創世

佐賀市神野東2丁目5-15

☎ 0952-33-5511

※駐車場については直接会場に
お問い合わせください。

*総会 15:00~15:50
*市民公開講演会 16:00~17:50
*懇親会 18:00~20:00

■講師のプロフィール

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒、英バーミンガム大学大学院修了。

「日本工業新聞」記者、「プレジデント」編集者、「週刊文春」特派記者などを経て独立。

著書に『安心のファシズム』『ルボ改憲潮流』岩波新書、『強いられる死～自殺者三万人超の実相～』角川学芸出版、『経済学は人間を幸せにできるのか』平凡社、『消費税のカラクリ』講談社現代新書、『消費増税で日本崩壊』ベスト新書、『民意のつくられたか』岩波書店、『安倍改憲政権の正体』岩波ブックレットなど

◇お問い合わせ・お申し込み先

佐賀県保険医協会事務局まで
TEL 0952-29-1933
FAX 0952-23-5218

曙

皆さまは勝尾城と川上忠堅という名をご存知だろうか。勝尾

造寺家の前に肥前を治めていた少武氏一門である。1586年、当主筑紫広門が島津家久の攻撃を受けて勝尾城は落城。以後廃城となつたが、城跡には石垣、土塁などの遺構が残り、良好に保存されている。城下町遺跡とともに、勝尾城筑紫氏遺跡として2006年に国の史跡に指定された。島栖の城山を登山すればその遺跡をしのぶ事ができる。また川上忠堅は龍造寺軍と有馬・島津連合軍が現在の島原付近で戦つた沖田継の戦いで龍造寺隆信の首級を挙げる大功を遂げた人である。その際、隆信の脇差を戦利品として持ち帰り、子孫に受け継がれ、「神靈」と墨書きした箱に収めて大切に扱つた。また隆信の靈を弔い氏神とした▼平成20年、子孫によって脇差は佐賀県に寄贈され、平成21年に佐賀県立美術館で初公開された。島津堅は筑紫広門の弟の筑紫晴門に一騎討ちを申し込まれ、これに応じ苦戦の末討ち取つたが、その時の傷がもとで自身も間もなく死去した。享年29歳。忠堅は今も勝尾城近隣、水田のそばにひつそりと眠つている。墓の周囲には鍋島家12代当主「家映公」が植えた松の木があつた立役者とも思つたのだろうか。皆さまに彼を鍋島家繁栄の基礎を作つた立役者とも思つた。そうで「家映公」は鍋島家と川上忠堅の墓をぜひ訪れていただきたい。